

平成28年度

全国学力・学習状況調査
福岡県学力実態調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



平成28年12月

柳川市教育委員会

平成28年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力実態調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

－ 目 次 －

I 調査の概要	2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
II 調査結果の概要	
全国学力・学習状況調査の結果	3
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
福岡県学力実態調査の結果	6
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
III 児童生徒質問紙（学習状況調査）の結果の概要	9
1 小学校	
2 中学校	
IV 学校質問紙の結果の概要	12
1 小学校	
2 中学校	
V まとめと今後の取組	14
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び平成28年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果以下のホームページにてご参照ください。

○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査 [URL : http://www.nier.go.jp/](http://www.nier.go.jp/)」

○ 福岡県学力実態調査の結果（H28.12.26に福岡県教育委員会ホームページに掲載）

福岡県教育委員会 義務教育課

「平成28年度全国学力・学習状況調査調査結果報告書・福岡県学力実態調査結果報告書」

[URL : http://www.pref.fukuoka.lg.jp](http://www.pref.fukuoka.lg.jp)

平成28年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力実態調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 6 学年の全児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 3 学年の全生徒	580 名 549 名
○ 福岡県学力実態調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 5 学年の全児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 2 学年の全生徒	533 名 575 名

3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力・学習状況調査	平成 28 年 4 月 19 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)、 児童生徒質問紙(小・中)、 学校質問紙調査(小・中)
○ 福岡県学力実態調査	平成 28 年 6 月 21 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)

4 調査内容

(1) 教科の学力に関する調査

<p style="text-align: center;">主として「知識」に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査 [国語 A、算数・数学 A] ○ 福岡県学力実態調査 [国語、算数・数学 基礎問題] 	<p style="text-align: center;">主として「活用」に関する問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査 [国語 B、算数・数学 B] ○ 福岡県学力実態調査 [国語、算数・数学 活用問題]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身につけておかねばならず、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践・評価する力などに関わる内容

(2) 学習状況調査 (生活習慣や学習環境等に関する調査)

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

Ⅱ 調査結果の概要

全国学力・学習状況調査の結果

小学6年・中学3年 (国語、算数・数学)

全国学力・学習状況調査の結果

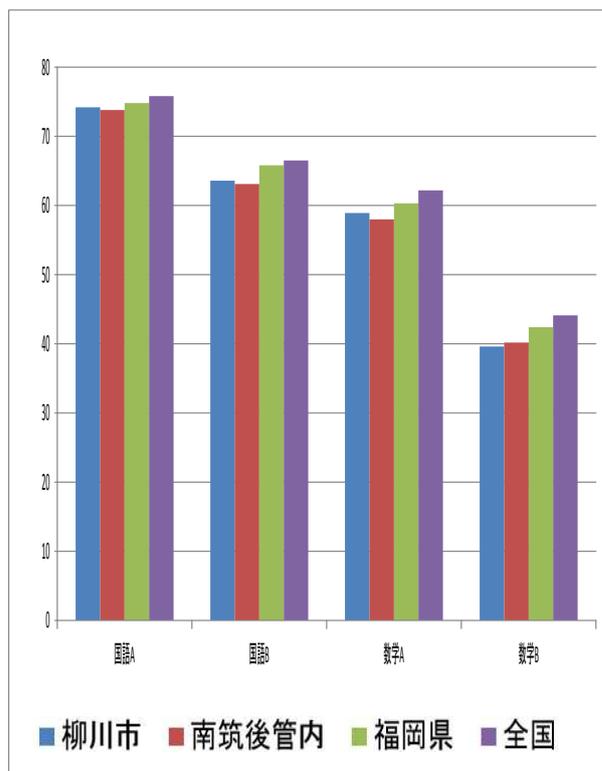
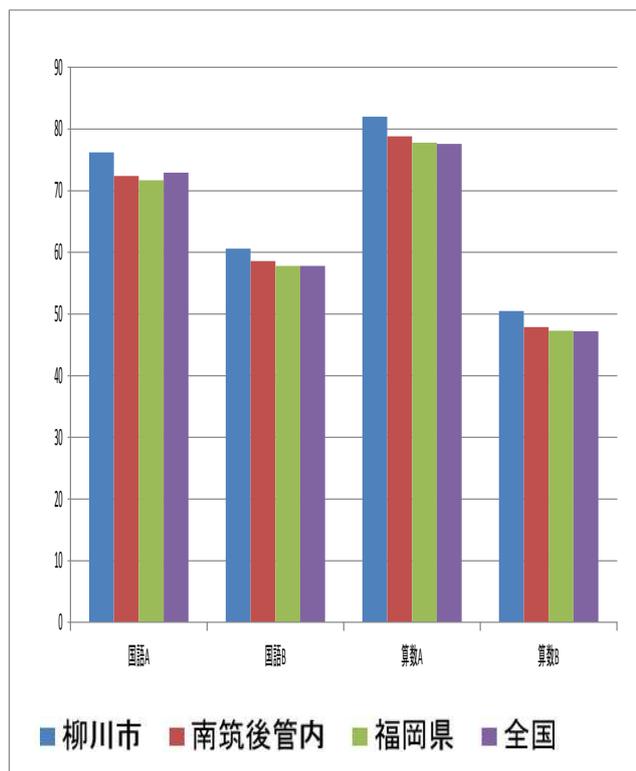
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

(%)

小学校

(%)

中学校



小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
全国	72.9	57.8	77.6	47.2
福岡県	71.7	57.8	77.8	47.3
南筑後教育事務所	72.4	58.6	78.8	47.9
柳川市	76.2	60.6	82.0	50.5
全国平均との差	+3.6	+2.8	+4.4	+3.3

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
全国	75.6	66.5	62.2	44.1
福岡県	74.8	65.8	60.3	42.4
南筑後教育事務所	73.8	63.1	58.0	40.2
柳川市	74.2	63.6	58.9	39.6
全国平均との差	-1.4	-2.9	-3.3	-4.5

※ 南筑後教育事務所管内市町-〔大牟田市・柳川市・八女市・筑後市・みやま市・大川市・大木町・広川町〕

【全体の状況】

- 平均正答率は、小学校においては 国語、算数のA問題・B問題、いずれも全国平均正答率を上回っている。(+ 2.8pt ~ + 4.4pt)
- 中学校においては、国語、数学のA・B問題、いずれも全国平均正答率をやや下回っている。(- 1.4pt ~ - 4.5pt)

【小学校】

- 小学校の平均正答率について、全国平均を国語A問題が 3.6pt・B問題が 2.8pt 上回った。全国と本市の正答率の差を比べると平成 27 年度とほぼ同様の傾向であった。
- 算数では全国平均を算数A問題が 4.4pt・B問題が 3.3pt 上回り、27 年度より 1.7~1.9pt 上回った。

【中学校】

- 中学校の平均正答率について、国語A問題が-1.4pt・B問題が-2.9pt 下回った。27 年度と比べ全国との差がA問題では縮まり(-2.8pt → -1.4pt)、B問題は広がった。(-1.0pt → -2.9pt)
- 数学においては、A・B問題ともに、全国平均と比べ 3 pt 程度下回った。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

（1）小学校 国語

【国語A】

- 「漢字の読み・書き」については、全国平均正答率を上回り、相当数の児童が理解できていると判断できる。
- 「書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する」等については全国平均をかなり上回った
- 「目的に応じて、質問したいことを整理したり、質問の意図を捉える」ことに課題がある。

【国語B】

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべてで全領域で全国平均正答率を上回った。
- 「目的や意図に応じて表をもとに自分の考えを書く」で全国平均を6 p t 程度上回り、理解度が高い。
- A問題と同様に「目的に応じて、質問したいことを整理したり、質問の意図を捉える」では目的意識や相手意識を持って、事柄を整理し課題を解決することに課題がある。

（2）小学校 算数

【算数A】

- 「数と計算」「図形」領域において、全般的に理解の定着が進んでいる。
- 「数と計算」の全設問（全9問）が全国平均正答率を上回っている。特に除法の計算能力が高い。
- 「図形を構成する角の大きさをもとに四角形を並べてできる形を判断する」ことに課題が見られる。

【算数B】

- 「量と測定」領域において、「示された説明を解釈し、別の場面に適用し、その説明を記述できる」で全国平均正答率を8 p t 以上も上回り、理解の程度が高い状況にある。
- 「数量関係」において「2量の関係を式に表し、答えを導き出す」で全国平均正答率を6 p t 以上も上回っている。
- 図形の構成要素等に注目しながら、図形の性質を理解し、活用し説明できることに課題がある。

（3）中学校 国語

【国語A】

- 「書くこと」において、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」「集めた内容を整理して文章を構成する」では全国平均正答率を上回った。
- 「話すこと・聞くこと」において、「互いの発言を検討して自分の考えを広げる」に課題がある。

【国語B】

- 「読むこと」において、「文章の構成を捉える」問題が全国平均正答率をわずかに上回った。
- 「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」「目的に応じて必要な情報を読み取る」等に課題がある。

（4）中学校 数学

【数学A】

- 「数と式」において「正の数、負の数」「不等式の意味」、「図形」において「空間における直線と直線の位置関係」「見取り図の読み取り」が全国平均正答率を上回った。
- 「分数と小数の乗法の計算」「自然数の意味の理解」「数量の関係を文字式に表す」に課題がある。

【数学B】

- 「図形」において、「筋道を立てて証明する」「付加された条件の下で新たな事柄を見出し説明する」が8～10 p t 程度下回り課題が大きい。
- 「資料の活用」において「与えられた情報から必要な情報を選択し数学的に表現できる」が全国平均正答率を10 p t 以上下回り課題が大きい。

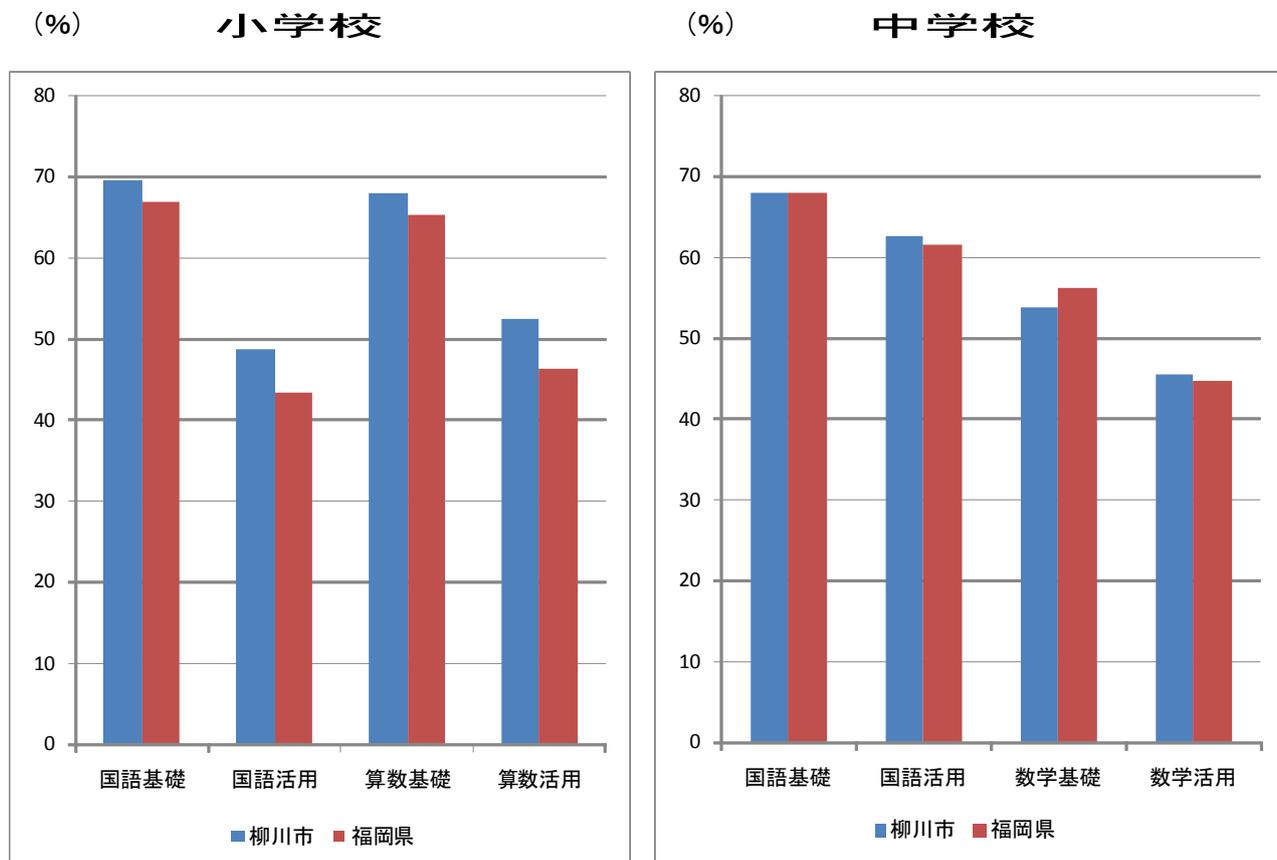
Ⅱ 調査結果の概要

福岡県学力実態調査の結果

小学5年・中学2年 (国語、算数・数学)

福岡県学力実態調査の結果

1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）



小学校	国語	国語	算数	算数
	基礎	活用	基礎	活用
柳川市	69.5	48.7	68.0	52.6
福岡県	67.0	43.5	65.4	46.3
県平均との差	+2.5	+5.2	+2.6	+6.3

中学校	国語	国語	数学	数学
	基礎	活用	基礎	活用
柳川市	67.9	62.7	53.7	45.5
福岡県	68.1	61.5	56.3	44.6
県平均との差	-0.2	+1.2	-2.6	+0.9

- 小学校においては、国語、算数の基礎問題・活用問題いずれも県平均正答率を上回っている。
国語基礎（+2.5 pt）、国語活用（+5.2 pt）、算数基礎（+2.6 pt）、算数活用（+6.3 pt）
- 中学校においては、国語・数学の基礎問題はいずれも県平均正答率を下回っている。国語・数学の活用問題はいずれも県平均正答率を上回っている。
国語基礎（-0.2 pt）、国語活用（+1.2 pt）、数学基礎（-2.6 pt）、数学活用（+0.9 pt）

2 小・中学校別の傾向（国語、算数・数学）

（1）小学校国語

- 「小学3．4年の当用漢字の読んだり、書いたりすること」がよくできている。
- 「文と文の意味のつながりを考え、接続語を使って内容を分けて書く」に課題がある。
- 「調べたことをもとに、身の回りの物事を対象に文章をまとめて書くことができる」に課題がある。

（2）小学校算数

- 「計算のきまりを使って、四則混合のけいさんをする」がよくできている。
- 「身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使う」がよくできている。
- 「概数を使って示された説明を理解し、別の事例に適用する」がよくできている。
- 「小数の乗法・除法の式に合った問題場面を選ぶことができる」に課題がある。
- 「折れ線グラフから、増え方が最も大きい区間を読み取ることができる」に課題がある。

（3）中学校国語

- 「小学校、中学1年の当用漢字を読んだり、書いたりすること」がよくできている。
- 「段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉えることができる」に課題がある。
- 「言語事項において表現技法について理解している」に課題がある。

（4）中学校数学

- 「ヒストグラムの特徴を読み取り、結果の理由を説明すること」がよくできている。
- 「平面図形や空間図形における頂点・辺・面の位置関係」等に課題がある。
- 「正の数・負の数・文字式」「度数分布から相対度数を求める」等に課題がある。

Ⅲ 児童生徒質問紙(学習状況調査)の結果の概要

学 習 状 況 調 査 の 結 果

小 学 6 年 ・ 中 学 3 年

Ⅲ 児童生徒質問紙（学習状況調査）結果の概要

※ こどもたちの日常的な生活や学校での様子、学習への意識や考え方などを85項目にわたってアンケートしたものです。

数値は、こどもたちが「当てはまる」と回答したものについて記載しており、柳川市の平均と全国平均との差を表しています。ここでは、特に顕著な傾向が見られた内容を示しています。

1 小学校

(1) 望ましい面

【学校生活・自分自身のこと】

○学校へ行くのは楽しいと思いますか。	+ 2.9 pt
○自分にはよいところがある。	+ 0.6 pt

【家庭生活】

○今、住んでいる地域の行事へよく参加している。	+ 10.6 pt
○1日3時間以上ゲーム（コンピューター、携帯式を含む）をしている。	- 0.7 pt

【授業、教科の学習】

○授業で「めあて」と「まとめ」がよく示されていた。	+ 0.1 pt
○学習ノートに「めあて」と「まとめ」を書いて学習している。	+ 9.2 pt
○算数の問題は最後まで解こうとした。	+ 0.3 pt
○算数の学習が好きである。	+ 1.6 pt

(2) 改善したい面

【自分自身のこと・規範的行動】

△将来の夢や希望、目標を持っている。	- 2.7 pt
△学校の規則を守る。	- 4.7 pt
△人が困っているとき進んで助けていますか。	- 5.9 pt

【学校生活】

△先生や友だちの話を最後までしっかり聞くことができる。	- 5.1 pt
△読書が好きである。	- 3.1 pt

【家庭生活】

△ほぼ毎日、家の人と学校の出来事について話す。	- 7.5 pt
△家で、学校の宿題をしている。	- 5.8 pt

【授業、教科の学習】

△国語の学習が好きである。	- 0.4 pt
△国語の勉強はよくわかる。	- 7.5 pt
△算数の勉強はよくわかる。	- 2.1 pt
△授業の中で、話し合いの活動をよく行っている。	- 3.8 pt
△友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意である。	- 2.5 pt

(3) その他

・学習塾（家庭教師含む）に通っている。	- 8.4 pt
---------------------	----------

2 中学校

(1) 望ましい面

【自己肯定感、規範的行動】

○ いじめは、どんな理由があっても行ってはならない。	+ 7. 3 pt
○ 将来、社会の役に立つ人間になりたい。	+ 3. 5 pt

【学校生活】

○ 学校に行くのは楽しい。	+ 2. 9 pt
---------------	-----------

【家庭生活】

○ 毎日、4時間以上テレビやDVD等を見ている。	- 0. 8 pt
○ 1日1時間以上ゲーム（コンピューター、携帯式を含む）をしている。	- 1. 9 pt

【授業、教科の学習】

○ 数学の勉強が好きである。	+ 1. 5 pt
○ 学習ノートに「めあて」と「まとめ」を書いて学習している。	+ 2 2. 7 pt
○ 授業の中で「振り返り」の活動をよく行っている。	+ 8. 1 pt

(2) 改善したい面

【自分自身のこと、規範的行動】

△ 自分にはよいところがある。	- 5. 2 pt
△ 将来の夢や希望、目標を持っている。	- 0. 2 pt
△ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。	- 1 0. 9 pt
△ 学校の規則を守る。	- 2. 2 pt

【家庭生活】

△ 今、住んでいる地域の行事へよく参加している。	- 0. 8 pt
△ 平日、学校以外で2時間以上勉強をする。	- 8. 9 pt

【授業、教科の学習】

△ 数学の勉強がよくわかる。	- 4. 9 pt
△ 国語の勉強はよくわかる。	- 6. 2 pt
△ 国語の問題を最後まで解答を解こうと努力した。	- 1. 4 pt
△ 授業の中で、話し合いの活動をよく行っている。	- 5. 6 pt
△ 授業の中で発表する機会がよくある。	- 3. 2 pt

(3) その他

・学習塾（家庭教師含む）に通っている。	+ 9. 2 pt
---------------------	-----------

Ⅳ 学校質問紙の結果の概要

学 習 状 況 調 査 の 結 果

学 校 に 対 す る 調 査

IV 学校質問紙に関する調査結果

※ 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問についてアンケートしたものです。

ここでは、特に顕著な傾向が見られた内容を示しています。

1 小学校

- 学習理解が不十分な児童に対して、校内指導体制を整え全教師で放課後を利用した補足的な学習サポートを実施する学校が全国比で上回っている。
- 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立して取り組むことが定着してきた。
- 学校全体で学力傾向や課題について、全教職員で共有して日々の教育活動のなかで取り組むことが全国と比べて上回っている。
- 近隣等の中学校と意見を交換し合うなど教員同士の交流が進んできた。各中学校区ごとに小学校・中学校が意見交換を行い、学力向上や生徒指導の面から共通実践項目を設定し、各学校で継続的に実践する学校が全国と比べ上回っている。
- 教師の指導力の向上をめざし、校内・学校外の研修の充実を図っている。模擬授業や事例研究が全国と比べ上回っている。若年教師の育成のためにOJTを推進する学校が多くなった。
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全職員で話し合ったり検討したりする機会をさらに増やすことが望まれる。
- 算数等の授業において、児童の習熟の程度に応じた少人数による指導やチームティーチングによる指導を実施することで、きめ細かな学習指導をさらに充実する必要がある。
- 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけが全国と比べると下回っている。

2 中学校

- 放課後を利用した補足的な学習サポートを行う学校体制が全国と比べ大きく上回っている。
- 生徒に対して学習規律（私語をしない、話している人のほうを向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底することを学校全体で取り組んでいる。
- 数学等の授業において、生徒の習熟の程度に応じた少人数による指導やチームティーチングによる指導を実施することが増えてきた。
- 職場見学や職場体験活動の実施は全市的な取組としてキャリア教育を実践していることで、全国と比べても充実したものとなっている。
- 教員が他校や外部の研修機関などの学校外の研修に積極的に参加したり、校内の授業研究の場を定期的・継続的に実施していることで、教師の指導力や人材育成に取り組んでいる。
- 国語や数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について評価・指導しているが、保護者への働きかけを行うことが全国と比べ不十分である。
- 授業において、学級やグループで話し合う活動を行うことが全国と比べて下回っており、自分の考えや他の生徒の考えを交流できる機会を増やすことが望まれる。
- コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導が全国に比べ課題がある。
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全職員で話し合ったり検討したりする機会をさらに増やすことが望まれる。

V まとめと今後の取組

1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校9年間にわたって「学ぶ目的意識の醸成」を図りながら、確かな学力（学ぶ意欲や学習態度、知識・技能とそれらを活用して得る思考力、判断力、表現力）を身につけさせ、未来の柳川を担う子どもを育成すること。

2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

(1) 小学校

- ・全小学校において補充学習や繰り返し学習に取組が見られ、学力向上の効果が見える学校では個別の習熟の度合いに応じた課題学習の教材の工夫などに特徴が見られる。
- ・児童の学習意欲や落ち着きのある学習態度が定着している学校ほど効果を上げてきている。さらに、それらの学校は、児童生徒の実態把握に関する教職員の意識も高い。

(2) 中学校

- ・全中学校において調査結果から「めあて」と「まとめ」、「振り返り」のある授業の実施が向上してきている。各中学校で授業改善が進んできている。
- ・教科間、学年間の格差が大きく、教師の授業力のさらなる向上が課題である。週案の活用を通して教材研究や授業改善の日常化が必要である。

(3) 小・中学校共通

- ・学校で実施している様々な評価（定期テスト、学力テスト、単元末テスト等）の結果を分析して、学力向上のシステムや教職員の意識を高めていく必要がある。
- ・小・中学校9年間を見通した学力向上の目標設定と職員の課題の共有化が必要である。柳川市内6中学校区ごとの小・中学校の共通実践を年間を通して進めていく。

3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

(1) 柳川市教育委員会

- ・ 調査結果の分析
- ・ 学力向上の基本構想の策定
- ・ 各学校の取組状況の確認・指導
- ・ 学力向上のための指導主事派遣
- ・ 研修・啓発資料の作成
- ・ 授業時数実施状況の確認
- ・ 9年間を見通した小・中学校の共通実践

(2) 小学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・ 教材研究の力を向上させる校内研修の充実（事前研究会の工夫）
- ・ 学校経営力の向上を図る研修会の実施
- ・ 若年教師の授業力の向上を図る研修会の実施

(3) 中学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・ 週案の定着と活用
→教育課程の記録簿から計画簿への移行、教育課程の確実な計画、実施、評価
- ・ 校内研修のための時間の確保
- ・ 若年教師の授業力の向上を図る研修会の実施

(4) 小・中学校共通の取組

【授業において】……………取組の中核である。

- ◎ 教材研究に裏打ちされた授業の充実
 - ・ 解説書の内容分析、教科書活用、教材の工夫等
 - ・ 主題研修・一般研修の日常化
 - ・ 調査問題等の授業への活用
- ◎ 児童・生徒の見方、考え方、感じ方に寄り添った授業の確立
 - ・ 子ども達の鋭い反応を促す発問・板書等、授業技術の向上
 - ・ レディネス調査、授業中の形成的評価等からの授業構想・実践
 - 複線型指導法（習熟度別等） -----一単位時間の中での補充の徹底等
- 学習規律の徹底
 - ・ 落ち着いた雰囲気の中での授業実践
- 学習ノートの工夫と学年段階に応じた継続的な指導

【授業以外において】

- ◎ 補充学習の充実
 - ・ 評価に基づく補充学習の充実
 - ・ 各学校教育課程外に位置づけているドリルタイム、補充の時間の充実
(調査問題の積極的な活用)
- 家庭学習の充実
 - ・ 家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実
(授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等)

平成28年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力実態調査
『調査結果報告書(柳川市)』

平成28年12月発行

発行者 柳川市教育委員会
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話0944-77-8852(教育指導室)
